

◆ 謹賀新年 ◆

ちょっとした 背伸びで、
この 美味しさ。



明けまして おめでとうございます。

昨年中は、御愛顧頂き誠にありがとうございました。

本年も、何卒変わらぬ御愛顧のほど
よろしく願い申し上げます。

さて、年始早々少し大袈裟ではありますが、人類史上 4000 年ほどのなかで経済成長を続けてまいりましたが、この数十年を見ていると、ようやく行き着くところに行き着いた感があります。

今までと同じように、成長して行く事を前提とした事業は、取ったり取られたりするのみで、社会全体としては成長の行き先がない事も何となく見えてきたような気がしています。

私どもの食糧品卸業も、お腹を満たす為に働いてきた長い歴史に終止符を打つ時が来たように思えます。

『 同じ商品であれば安い方が良い 』という命題

も、本当にそうなのだろうか？と疑ってみる事が
必要な気がしてまいりました。

あらゆる生き物が命を繋ぐために進化する事を
前提としている限り、同じ商品であれば安い
方が良いとだけ考えていけば、その進化の素に
なる成長は何処にもないと思えます。無論そ
のこと自体の存在を否定することは出来ません
が、思春期で身体の成長が止まった後の生
命の長さを考えれば、もう少し目には見えない
ところの成長を、遺伝子には組み込まれている
のではないかと思ってしまうのです。

現在は、個あってこそその社会との風潮になっ
ていますが、私自身は、行き過ぎた一部の指
導者による専横を許すものではありませんが、
社会あってこそその個ではないかと思い始めていま
す。それは私たちの身体を構成する細胞が集
まって私たちの命を育み、その命が消えると身
体の細胞も消える関係に似ているような気がし
ます。

弊社自体は、健康な身体と健全な社会の
成長を、食を通して貢献できる事を目的として
事業を営んでいきたいと考えております。その
為の商品の開発と販売の御提案が出来れば
幸いです。もちろん確信など無く私見に過ぎま
せんが、一歩でも近づく事が出来ればそこに弊
社の存在価値を見出せると考えております。



こんな奥山で、400年生活を積み重ねて来た地域があります。宮崎県の椎葉村というところ。壇ノ浦の戦いに敗れて落ちのびた方たちが住み着いたところですが、実はその以前から彼等はこの辺りに天孫降臨の情報を、持っていたのではないかと野放図な夢を見ている。その点については確認のしようも最早ありませんが、この地を訪ねて取材した事が柳田國男の民俗学書籍出版のスタートになっている事を考えれば、この地に何かひとを惹きつける空気感を私同様感じたのかもしれない。

今年の年初の企画商品として、春の七草セットを企画しました。



畑を見せていただきましたが、正直申し上げて私が育ててきた野菜とは趣が違いました。前作はミニトマトの方と夏の法蓮草の方と両方だそうですが、いずれもその残肥で育てているとのこと。まだ気温がありますので状況によっては農薬を散布することもあるそうです。

そんなことは大した問題ではないのですが、結果として仕上がった商品は売り場でも十分な存在感を発揮して光り輝いていました。そもそも七草と言うくらいですから、基本は草というか野草です。

だから、品種改良も進んでいないことも手伝って、自らの生命力のみで、この奥山の空気感というか、エネルギーのみを頼りに育っています。



おそらく樹からおりて人間になった時は、農業もなかったので動物を狩るか食べられる野草を探したのではないかと思います。お正月料理に疲れた消化器官を癒す目的だけではなく、そんなシンプルな食の原点に思いを馳せさせる意味も、先人はこの七草粥を食べる習慣に託したのかもしれない。

つまり『**食の本質**』を確認する機会を与られている気がします。

七草セットは、そんな日本の食文化に根付いている重要な商品でした。この商材の取り扱い方で、その企業の『食』に対する姿勢をお客様に表現できる絶好の機会なのではないかと考えています。品質もさることながら、食文化であれば健康とも密接なつながりを持っています。健康であれば栄養素の問題だけでなく、商品情報次第で価値を倍増出来るような気がします。

また、来年が楽しみです。